

非行防止は地域ぐるみで

青少年が、非行に走り、補導される件数が増えています。

7月1日から8月31日まで、健康で明るい家庭づくりと、非行の早期発見を重点目標に「夏に青少年を守り育てる運動」が行われています。

正しい判断のできる青少年を育てる大人たちの役割を考えてみましょう。

地域でミニ懇談会

青少年をとりまいている地域の各団体、民生委員、保護司会、婦人会、学校の先生なども参加してミニ懇談会が行われています。

懇談会では、地域ぐるみで子ども達を見守る。

他人の子どもには無関心という考え方を改め、隣・近所で注意しあえるようにしたいなどの意見がでてきます。

これは、青少年の非行をなくすには、学校、家庭、社会が一体とならなければ防止できないという気運が高まってきたからだと思います。

青少年の環境浄化を

有害雑誌収納の自動販売機が、市内にあります。お金さえ入れれば簡

単に青少年の手に入る。

これらの有害雑誌は、青少年にあたる影響が大きく、性犯罪の引き金にもなりかねません。

このような自動販売機を設置させないためには、大人たちが、地域運動を盛り上げ、追放を呼びかけることが、一番効果的です。

このほかにも青少年が、非行に走りやすい環境をつくっている大人達もう一度考えなおす必要があるのではないのでしょうか。

たまり場をつくらない

現代の社会構造として、共働きがふえ、昼間誰もいなくなる家が多くなっています。

この留守の家に青少年が集まり、私服に着替えて町に遊びに行ったりシンナー遊びをするケースが考えられることです。

これを防ぐにはやはり、近所の人たちが、自分の子どもでなくても注意したり、親に知らせる。

一方注意された親は、すなおに受けとめて、自分の子どもの言葉使いとか、服装が変ってきたかなどに気をつけることが、非行の芽をつみとることになります。



子どもの指導は

子ども達は、好奇心が旺盛です。人に迷惑をかけないしつけは、重要なことですが、あまりにも子ども達をしばりつけてはいませんか。

家庭での指導は、年代に合ったしつけ、形だけでなく、考え方を教えた方がいいものです。

結果を考える行動ができるようになれば十分だと思います。

非行に走るの、心の病、けがと同じです。

大人が、子どもの心になってめんどろをみれば防止できます。

なお、子どものことで不安や悩みをお持ちの方は、補導センター（市教育委員会社会教育課内）で相談員が相談に応じますので気軽におでかけください。



【旧富士商工会議所】

消えゆく昭和初期の西洋文化



両建物の設計者
鈴木正雄さん(76)
吉原3丁目

旧富士商工会議所の建物と鷹岡小学校の講堂が7月いっぱい姿を消します。▶商工会議所は昭和2年、吉原町島田村組合役場として建てられ、一時、吉原市警察庁舎として使われました。当時としては珍しい陸屋根で、外壁は人工みかげ石をぬりつけたモダンなもの。▶鷹小の講堂は昭和8年にできた県下初の鉄筋コンクリート2階建。▶商工会議所の跡地は緑地に、鷹小は新しく体育館が建てられます。▶両建物の設計者である鈴木さんは「会議所は僕が設計した最初のもので印象深いね。当時、市内のほとんどの公共建物を僕がやったんだけど、今はなくなっちゃって淋しいね」



【鷹岡小の講堂】